

令和元年度 西米良村立村所小学校 自己評価書

本年度の重点目標：主体的に学び合い、心豊かにたくましく生きる児童の育成 4段階評価 【 4…期待以上 3…ほぼ期待通り 2…やや期待を下回り 1…改善を要する 】

項目	評価指標	具体的(数値)目標	方策・手立て	自己評価		結果の考察・分析及び改善策	学校関係者評価コメント
				学校	評価委		
学力の定着・向上 (励む心、粘る心)	1	関係機関と連携した特別支援教育の充実と、児童一人一人の苦手分野克服に向けた組織的な対応による基礎学力の定着。	○個別のつまずきを可視化して、苦手分野克服に向けた個別指導対策を実施する。 ○アクティブラーニング(主体的・対話的で深い学び)による授業改善を継続する。	○諸検査(全国学力テスト、みやざき学力テスト、CRT、NRT等)の分析を綿密に行うとともに、臨床心理士等の専門家や関係機関と連携を深め、特別支援教育を充実させ、個に応じた指導を推進する。 ○研究授業・事後研究会を実施し、これらの実践を通して「分かる授業」を目指すとともに、教員の授業力を高める。	3	諸検査の対策は十分でなかったにもかかわらず、これまでの学習の成果がどの学年にも表れていた。定着が不十分な分野については、その後の授業の中で補える手立てを講じるなど、個別指導の徹底を図ってきた。授業力向上においては、全員の研究授業を実践することで、それぞれの授業の良さに触れ、自己の授業に生かすことで、授業改善と向上を目指してきた。	<ul style="list-style-type: none"> ・視察などを受け入れることは大変だと思うが、ICT等、先駆けとなる教育を見ていただくことは西米良村のPRにもなる。また、先生方のがんばっている姿を見ていただくのもありがたいことである。 ・テスト等の結果からも学力の向上がうかがえ、先生方の指導が結果に表れている。
	2	ICTを活用した指導方法の改善と、対話的な学びの工夫によるコミュニケーション力の育成。	○職員相互のOJTを機能させ、ICTの効果的活用による授業の質の向上を図る。 ○伝える力、コミュニケーション力の視点から、ICTを効果的に活用した授業を追求する。 ○学校の行事等において、ICTを積極的・効果的に活用し、「内」と「外」に開かれた活動を行う。	○日常的な教師相互の学び合いを継続し、ICTの効果的活用場面を共有するとともに、自らの授業改善に繋がれるようにする。 ○宮崎大学や鹿児島大学との連携を図り、村教育研究会を基盤とした教員の指導力向上を図る。 ○児童の発表場面における積極的なICTの活用やTV会議の効果的利用により、伝える力、コミュニケーション力の向上を図る。	4	ICT機器を活用した教育実践は、県内外にも広く知れ渡り、本年度の研究公開では、県外からの来校者も多く見られた。また、西都・西米良校長会及び教頭会、延岡市常任研究所、西都・児湯地区老人クラブ、宮崎県議会特別委員会などの視察研修が行われるなど、本校の教育実践の外部発信も積極的に行ってきた。	
	3	地域を生かした教育の工夫と、言語活動及び読書活動の推進による、自主性、考える力、コミュニケーション力の育成。	○地域の特性や地域素材を生かした活動を推進し、学校の諸行事に取り入れる。 ○読み聞かせ、語り部等の協力を得ながら、諸活動を充実させる。	○地域素材・人材の効果的な活用を行い、児童の主体的な活動による学校の諸行事を実施する。 ○地域素材・人材の一覧表を作成するとともに、学校の諸行事ごとの反省と改善策をまとめ、児童の学びとの関連について整理する。	3	「西米良ならではの」魅力的な行事を計画的に推進することができた。各団体の方々への支援と協力に心より感謝したい。今後もさらに人脈を生かした学習活動の発展を目指していきたい。	
	4	外国語活動・外国語の充実による、国際理解教育の推進。	○英語教育の充実と、国際理解教育の授業の指導の工夫により、主体性とコミュニケーション力を育てる。 ○研修を充実させ、個々の教員に対する適切な情報提供を図り、共有化に努める。	○ALTや中学校英語教員と連携を図りながら、児童が主体的に参加する外国語科の導入と、外国語活動・国際理解教育の工夫を行う。 ○研修会への積極的参加や、英語教育についての校内研修を充実させ、教員の指導力向上を図る。	3	ALT及び中学校英語教員と連携しながら、外国語活動・国際理解教育の推進を図ることができた。英語教育についての校内研修を実施していないので、中学校と連携した研修内容について検討していきたい。	
豊かな心の育成 (礼節の心、感謝の心)	5	家庭・地域と連携した体験活動や福祉活動、キャリア教育の推進を通じた、互いに思いやる豊かな心の育成。	○地域や自他のよさに気付くことができる体験活動を工夫する。 ○児童の自己有用感や思いやりの心、感謝の心を育てる調へ活動や表現活動を工夫する。	○改訂した「ふるさと西米良学」をもとに、生活科や総合的な学習の時間を工夫し、地域や自他のよさに気付かせる。 ○主体的な調べ活動や表現活動を積極的に取り入れ、児童の自己有用感や思いやりの心、感謝の心を育てる。	3	JAやアグリスクールの方々をはじめ、多くの地域の方々とふれあう活動を実践してきた。大変魅力ある取組で、児童にはふるさとを愛する心情が育ってきている。次のステップとして、児童自らが見つけ設定した課題を元に、これらの学習が展開できるようにしていきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつはよくするほうだと思う。バスの乗降の際も「お願いします。」「ありがとうございました。」の音が聞かれる。 ・学校外のあいさつについては家庭の意識も必要。他と比べるとよくできているほうではないだろうか。 ・道徳心については、数値化できるわけでもなく、大人でも十分身に付いていると評価するのは難しい。
	6	道徳科の指導や諸活動計画の創意工夫による、児童の豊かな心の育成。	○道徳科における「主体的・対話的で深い学び」を目指し、節度ある態度や思いやりの心を育てる。 ○縦割り活動や協働的活動を通して、思いやりや感謝の心を育てる。	○児童の道徳性・道徳的価値をより一層育みながら、道徳科の指導方法を具体的に研究・改善する機会を設定するとともに、参観日における道徳の一斉授業の中で示すようにする。 ○行事等の縦割り活動や協働的活動を通して、思いやりや感謝の気持ちを育てる。	3	縦割り活動を様々な学習の場面で取り入れることにより、お互いを思いやることの大切さを実感させるようにしてきた。道徳の授業では、少人数のために多様な価値観に触れることができず、固定観念の払拭が難しい場合がある。	
	7	受容と共感に満ちた教育の推進による、自己有用感・自己肯定感及び、思いやり、認め合う態度の育成。	○日常の遊びやボランティア活動、児童クラブとの連携等を通して、他を思いやる心を育成する。 ○生徒指導を充実させ、自己有用感・自己肯定感を育てるとともに、昨年度改訂した「いじめ防止基本方針」の浸透を図る。	○遊びやボランティア活動、児童クラブとの連携等の中で、思いやりの心の育成に努める。 ○心の教育を充実させ、人権感覚を養うための指導を実施するとともに、いじめの早期発見、適切な対応等、新たな「いじめ防止基本方針」に基づいた指導を徹底する。	3	児童クラブとの密なる連携が図られたことにより、いじめの早期発見と早期対応ができるようになった。子どもたちに対しては、具体的な場面を通して、人権感覚を養うための指導を行うようになってきた。	
たくましい体づくり (粘る心、励む心)	8	基礎体力を育む学習指導の工夫と運動の日常化。	○粘り強く進んで体力の向上に取り組もうとする児童を育てる。 ○基礎体力を向上させ、運動の日常化に取り組もうとする児童を育てる。	○体育学習を工夫し、粘り強く進んで基礎体力の向上に取り組もうとする児童を育てる。 ○毎週の村所タイムにおける体力向上の時間をはじめ、基礎体力の向上や運動の日常化につながる活動を工夫するとともに、環境を整備する。	3	体育の授業のみならず、本校ならではの創意工夫のある体力向上の取組により、各個人のレベルが向上してきた。県の課題である「握力」「20mシャトルラン」についても、各学年で積極的に授業に取り入れているので、その成果が徐々に表れてきている	<ul style="list-style-type: none"> ・残食「0」ということは他ではなかなか難しいことであり、すばらしい。 ・欠席も少ないということは、食事もしっかりとり、児童の体力もついているといえる。
	9	歯科指導、保健指導を通じた自己の健康・安全を維持しようとする態度の育成。	○健康診断や体力テストの結果をもとに保健・安全に関心を持つ児童を育てる。 ○歯科指導の充実を図り、健康と体力の維持向上に努めようとする児童を育てる。	○健康診断や体力テストの結果をもとにした保健・安全指導を推進する。 ○学校歯科医と連携し、フッ化物洗口やブラッシング指導、むし歯予防運動を推進するとともに、早期治療について、家庭との連携の在り方を見直す。	3	学校保健委員会や、児童への保健指導などを通して、児童や保護者の健康に対する意識が高まりつつある。むし歯の治療率についても向上してきた。引き続き各家庭への啓発を行ってきたい。	
	10	食に関する指導や栄養指導を通じた、食と栄養に関する理解の深化と、自らの健康を維持しようとする態度の育成。	○西米良村給食センター(共同調理場)と連携し、望ましい食習慣を培うための給食指導を充実させる。 ○家庭や地域と連携した効果的な食育指導を推進するとともに、家庭への情報発信を積極的に行う。	○地元産米や地場産品(ジビエ等)の食材による学校給食の推進と、家庭や特別活動における栄養指導や食育指導を関連付け、より望ましい食習慣を育てる。 ○毎月発行する「給食便り」の内容を工夫し、家庭や地域と連携した食育指導を充実させ、具体的・実践的な自己管理能力の育成を図る。	4	栄養教諭が給食センターと連携を図りながら、西米良の食材をふんだんに取り入れた魅力ある学校給食の取組を進めた。児童の残食は「0(ゼロ)」であることから、給食の質の高さと、各学級における給食指導の充実がうかがえる。給食便りも、保護者に積極的に発信することにより、食への意識が高まった。	
期待と信頼に応える教職員	11	相互に学び合い、授業力・指導力向上のための研修に努める。	○教師相互が学び合い、切磋琢磨しながら向上していく集団づくりを行う。 ○校内におけるOJTを中心とした授業力・指導力の向上を図る。 ○大学や教育委員会による指導をOJTに組み込みながら、質の高い取組を実施する。	○研究授業を核とした相互研修により、一人一人の授業力の向上を図る集団づくりを行う。 ○校外におけるOFF-JTへの積極的な参加と情報の共有化を図る。 ○TV会議を活用して、外部の教育資源を有効に活用することにより、学び続ける教職員のモチベーションの高揚を図る。	3	「突撃!隣の授業」週間などの取組で、校内における教職員相互の学び合い(OJT)が推進された。また、研究授業を核とした授業改善が組織的に図られたことにより、授業力向上を図る集団づくりを行うことができた。今後は、TV会議を活用した外部の教育資源を受け入れやすくなるための環境整備を図りたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・村のいろいろな行事で先生方を見かけてありがたい。教職員としてだけでなく、村民として、保護者としてと常に意識をされており大変であると感じる。 ・ここでしかできない経験もあり、そのようなことが今後生かされるとよい。 ・向上心を持って仕事をするときりのない仕事。何かを減らさないと働き方改革は難しいと感じる。
	12	教育公務員としての自覚を常に持ち、高める。	○コンプライアンス意識の高い集団づくりを行う。 ○人権感覚が高く、よりよい人間関係のある職場づくりに努める。	○コンプライアンス推進委員会を中心に、コンプライアンス意識定着のための自己点検を定期的実施する。 ○教師としての倫理観を高めるとともに、開かれた職場における人間関係の醸成を図る。	3	教頭をコンプライアンスリーダーとして、随時コンプライアンスの意識向上を図るための啓発活動を行ってきた。お互いに何でも相談できる風通しのよい職場環境を目指している。	
	13	西米良の住民としての意識を高め、地域活動へ積極的に参加する。	○地域行事へ積極的に参加するとともに、地域の諸活動に協力する。 ○学校・地域とともにあるPTA活動に、積極的に参加する。	○村民の一人としての自覚を持ち、地域行事への積極的な参加を通して、交流と親睦を図る。 ○学校・地域とともにあるPTAの一員として、PTA活動への積極的な参加を図る。	3	教職員も、一人の村民としての自覚を持ち、積極的に地域の行事に関わろうとする姿が見られた。また、PTAと連携した取組にも意欲的に関わりながら、交流・親睦を大切にするなど、協体制度も良かった。	